

・アジアでのデング熱流行状況

WHO西太平洋事務局は同地区管内の3月までのデング熱発生状況を報告しました(WHO Western Pacific Region HP 2012-3-20)。マレーシア、カンボジア、ラオスでは患者数が昨年同期に比べてやや増加していますが、全体的に流行は今のところ拡大していません。また、ベトナムやフィリピンでは患者数が昨年より少なくなっています。タイ政府の発表でも同国のデング熱患者数は落ち着いている模様です(<http://www.boe.moph.go.th/>)。東南アジア諸国はこれから雨季を迎えるため、ひきつづきデング熱への警戒を続ける必要があります。

・CDCのポリオワクチン推奨国リストに中国が含まれる

米国CDCは旅行者にポリオワクチンの追加接種を推奨する国のリストを更新しました(米国CDC Traveler's Health 2012-3-22)。このリストには、アジア地域では南アジア(アフガニスタン、パキスタン、イラン)や中央アジア(カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン)の国々とともに中国が含まれています。中国では2010年後半よりウイグル自治区を中心にポリオの流行が発生しました。2011年10月より新たな患者発生はありませんが、米国CDCは中国に滞在する旅行者にポリオワクチンの追加接種を推奨するとのコメントを出しています(米国CDC Traveler's Health 2012-2-14)。

・西アフリカでの髄膜炎菌性髄膜炎の流行

西アフリカ諸国では毎年乾季(年の前半)に髄膜炎菌性髄膜炎の流行がおこります。今年も1月よりベナン、ブルギナファソ、コートジボアール、ガーナなどで流行が拡大しています(WHO Global Alert and Response 2012-3-23)。流行株として、例年はA型が中心になりますが、今年はW135型が流行している模様です。

また、今年セネガル、マリ、ベナンに滞在したフランス人旅行者5人が、帰国後に髄膜炎菌性髄膜炎を発病しました(厚生労働省検疫所 HP 2012-3-15)。この病気は飛沫感染するため、人ごみなどで旅行者が感染するリスクがあります。このため流行期間中に西アフリカに滞在する旅行者は出国前にワクチン接種を受けておくことを推奨します。なお、日本で髄膜炎菌性髄膜炎ワクチンは未承認ですが、最近接種可能なトラベルクリニックが国内にも増えてきました。一般に使用されている4価ワクチンはA型だけでなくW135型にも有効です。

・ウクライナで麻疹患者が増加中

東欧のウクライナで今年になり5000人以上の麻疹患者が発生しています(EuropeCDC 2012-3-14)。西部国境付近で患者が多く、隣接するハンガリーやポーランドへの流行波及も懸念されています。今

年、東欧諸国に滞在する旅行者で麻疹ワクチンの接種が不十分な方は、出国前に追加接種を受けておくことを推奨します。